

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 協議会名称

都立清瀬高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）

(2) 事務局の構成

副校長、保健総務部主任（＝事務局長） 計2名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、教務部主任、生活指導部主任、進路指導部主任、保健総務部主任 計7名

(4) 協議委員の構成

学識経験者（大学教授）1名、中学校・特別支援学校管理職3名、地域の有識者・地域の関係者2名、校長が選任する保護者代表1名 計7名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会

第1回 令和4年6月15日（水）午後3時40分から 内部委員7名、協議委員7名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員選出、学校経営計画及び本校の現状と課題の説明、昨年度の学校運営連絡協議会の課題

第2回 令和4年9月28日（水）新型コロナウイルス感染症の影響により、紙面開催
コロナ禍における教育活動の報告、学校評価アンケートの内容検討、意見交換

第3回 令和4年12月21日（水）新型コロナウイルス感染症の影響により、紙面開催
コロナ禍における教育活動の報告、学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、次年度に向けた方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和4年6月15日（水）午後3時20分から 内部委員2名、評価委員2名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察、今年度における学校評価アンケートの実施に向けた検討、今年度の学校評価アンケートの観点・項目・内容・実施時期の検討

第2回 令和4年10月28日（水）新型コロナウイルス感染症の影響により、実施せず

第3回 令和4年12月21日（水）新型コロナウイルス感染症の影響により、実施せず

3 学校運営連絡協議会による学校評価

(1) 学校評価の観点

- ① 生徒・保護者・教職員に対し、本校の教育活動全般について同じ評価アンケートを実施して比較する。
- ② 地域住民に対しては、学校への理解の問いかけを中心に行う。

(2) アンケートの調査時期・対象・回収数

調査時期	令和4年11月末～令和4年12月		
対象	生徒	779人	回収 694人(89.1%)
	保護者	779人	回収 502人(64.4%)
	本校教職員	45人	回収 45人(100%)
	地域住民	56人	回収 56人(100%)

(3) 主な評価項目

学校生活、学習指導、生活指導、進路指導、学校の特色、施設・設備、家庭と学校の連携、情報発信、読書活動、体罰・いじめ対策・ワークライフバランスの推進

(4) 評価結果の概要及び分析

【結果全体の概要】

- ・今年度より、アンケート項目が全面的に刷新され、単純に過年度と比較することは難しいが、共通項目や類似している項目については、昨年度と比較し、分析した。
- ・学習・授業についてのように細分化された項目やICT推進等いくつかの新しい項目については、保護者に加え、生徒も「わからない(判断できない)」という回答が多数となった。
- ・全体の回答率が下がったものの、完全オンライン無記名での実施になり、生徒、保護者共に記入しやすいのもあり、自由記述が増えた。

【全体的な傾向】

- ・「清瀬高校に入学してよかった」(学校満足度)が昨年度より生徒、保護者共に下がった。特に2学年は学習面及び行事に関する満足感が他学年と比べると低い。コロナ感染症対策も長期化し、学校生活の様々な制限に疲れている可能性も考えられる。
- ・新たに追加された「自主的に学習している」という項目について1学年は肯定的な回答が25.9%に留まり、他学年と比べて低いことが目立った。
- ・ICT教育の推進について、2、3学年はあまり実感できおらず、「わからない」という回答が多い。1学年は1人1台端末の活用により、ICT機器の活用がより身近である。
- ・全学年の生徒に共通して、肯定的意見が低かったのは「地域連携」についての項目である。コロナ禍以降、実際に地域との連携や、ボランティアの機会が中止となっていることが原因である。
- ・本校に期待することについて生徒及び保護者共に「進路実現に向けた日常の授業」と「活発な行事」が最も多かった。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ① アンケートの結果や協議会では、授業や部活動など、本校が取り組んでいる内容が評価されている。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ① 昨年度中止が続いた学校行事等は今年度開催されたので、生徒・保護者とも満足度が大幅増加となったが、コロナ前までに回復するにはさらに時間がかかる。
- ② 校舎の老朽化に伴い、改修が必要との声もあがっている。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ① 生徒の進路第一志望実現を目指し、文武の両立ができる生徒の育成を目指す。
- ② 進路実現に向けた方針や取組を、保護者会や面談を通して更なる理解促進を図る。
- ③ 都立高離れ、清瀬高校離れを防ぐため、広く PR していく方策を練る。

(2) 学習指導

- ① 低学年の自主的な学習に向けて、学習方法の指導などさらなる取組が必要である。
- ② チューター制度の充実（定期考査前や土曜講習への活用）し、学習意欲向上を図る。
- ③ 自学自習に向けた環境整備を図り、部活動とのバランスを図る指導を一層推進する。
- ④ 教員がオンライン学習実施することで得た知見・スキルを用いて、授業改善を行う。

(3) 進路指導

- ① 各学年の三者面談を必要に応じて実施し、保護者と連携した進路指導を積極的に行う。
- ② 外部模試、進路講演会等のキャリアガイダンスを計画的に行う。そして、部活顧問と担任が連携を図り、生徒が学習と部活動の両立を一層図れるよう指導していく。
- ③ 模擬試験の定点観測を継続し、情報の共有を図り、学校全体で生徒の進路実現を推進する。

(4) 広報活動

- ① HP の更新回数を上げ、本校の教育活動全般を家庭・地域へ発信する。
- ② 学校見学会・学校説明会等で、生徒を全面に出した取組を継続していく。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員 7名

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
2	2	1			1	1

※今年度は書面開催により協議委員へのアンケートを実施。

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

8 その他

- (1) より一層、広報活動の工夫を図り、本校の教育活動を積極的にアピールする。
- (2) オンライン（Classi、Teams 等）の仕組みを積極的に活用し、生徒のみではなく保護者との連携に向けた方策を模索する。